

平成 28 年度  
第 1 回酒田市総合教育会議  
議事録

平成 28 年度 第 1 回酒田市総合教育会議

1 日 時 平成 28 年 7 月 4 日 (月) 開会：13 時 00 分 閉会：15 時 35 分

2 場 所 酒田市役所 3 階 第 2 委員会室

3 出席者

(構成員) 酒田市長 丸山 至  
酒田市教育委員会  
教育長 村上 幸太郎  
委員 浅井 良  
委員 齋藤 義明  
委員 國眼 真理子  
委員 岩間 奏子

(事務局) 総務部長 本間 匡志  
市民部長 澁谷 斉  
市民部まちづくり推進課市民交流推進主幹 岸谷 英雄  
商工観光部観光振興課付主幹 佐々木 好信  
教育部長 大石 薫  
教育委員会企画管理課長 桐澤 聡  
教育委員会企画管理課学区改編推進主幹 長村 正弘  
教育委員会学校教育課長 今野 誠  
教育委員会学校教育課指導主幹 佐藤 寿尚  
教育委員会社会教育文化課長 日下部 雅樹  
教育委員会社会教育文化課文化主幹 阿部 武志  
教育委員会スポーツ振興課長 小野 芳春  
教育委員会図書館長 阿部 博  
教育委員会企画管理課課長補佐 池田 裕子  
教育委員会企画管理課企画管理係長 関口 誠

4 傍聴者 4 名 (報道関係者 2 名)

5 協議事項

- (1) 本市の教育を取り巻く諸課題について
- (2) その他

6 議事経過の概要

次のとおり

## 1 開会

(大石教育部長)

これより平成 28 年度第 1 回酒田市総合教育会議を開会いたします。本日の会議の進行を務めさせていただきます教育部長の大石でございます。どうぞよろしくお願いいたします。本日、傍聴の申し出を受けておりますのでご報告いたします。最初に丸山市長からごあいさつをお願いいたします。

## 2 あいさつ

(丸山市長)

大変お忙しい中、総合教育会議にご出席いただきましてありがとうございます。28 年度に入って 1 回目ということですが、新しい教育委員会制度に移行して 1 年ほどになりますが、市長部局と教育委員会とのパイプをより太くするという意味もありますし、市勢の要は子ども達の教育だろうと私も考えておりますので、教育委員の皆様からご意見を聞きながら市政を進めていきたいという思いです。

現在、平成 30 年からの総合計画の策定作業に入っております。これまでは、内部あるいは市民代表の皆さんと議論をして 10 年あるいは 5 年という長期の総合計画、酒田の市政運営の一番大きな計画づくりをするわけです。今回も各団体の代表の方々から集まっていたいただき策定作業をしていただきますが、それとは別に一般市民の方からも、意見をいただきながら策定作業をしていこうということで、6 月中旬にワークショップを立ち上げました。100 名募集したところ 120 名集まりました。非常に積極的に参画していただいて驚いております。市政運営に市民が参画する仕組みがなかなかできていないという思いがありましたので、そういった仕組みを、市民が市政運営に参画できる環境を酒田市の中につくり上げていきたいといった思いで取り入れたわけですが、市民が教育行政にこういった期待をしているのかをこういった場を踏まえて把握していきたいと思っておりますし、教育委員の皆様からのご意見もいただきながら、市民の感覚も伝えながら、より良い酒田の教育を構築していきたいと考えております。もう一つそれとは別に、未来会議を立ち上げました。これは、中長期的な計画をつくるというよりも、来年、再来年にこういった事業をやったらいいのか、アイデアをお寄せくださいというワークショップです。こちらは 12 名でした。いろいろな声を吸い上げて街づくりを進める、これは私の方針でもあります。その意味では、総合教育会議は、教育に携わっている方々、深く関わっている方々の意見を吸い上げる制度でございますので、忌憚のないご意見をいただければと思います。

今日は、鳥海山・飛鳥ジオパーク構想の今の動きや、子ども達の教育、日ごろの学習にどう関わっていくのかについても意見を伺いたいと思っております。酒田市と遊佐町にかほ市と由利本荘市で構築しておりますジオパーク推進協議会の事務局長である佐々木主幹が出席しております。5 月の公開プレゼンテーションで佐々木主幹より非の打ち所のないプレゼンテーションを行っていただいたのですが、そのため、あえて意地悪な質問ということで教育委員会の制度や、子ども達の教育とジオパークの取り組みとどう展開されていますかという質問がありました。やはりまだまだということもありますので、今回こういったテーマを取り上げさせていただきました。どうぞ皆様からも忌憚のないご意見をお聞かせ願いたいと思っております。

今日はどうぞよろしく願います。

(大石部長)

ありがとうございました。続きまして、村上教育長からごあいさつをお願いいたします。

(村上教育長)

ただ今市長からごあいさつを頂戴いたしましたけれども、教育委員会に対して市長部局よりいつも応援の風をいただいていることに心から感謝を申し上げます。その一番の中心になるのがこの総合教育会議でして、教育委員会制度の改革の動向が注目されるわけですが、その一つが総合教育会議のあり方であると思っております。酒田市の総合教育会議は、重要なテーマについて忌憚のない意見交換が行われていると思っておりますので、今後ともよろしく願います。

今日はジオパークと教育の問題、国際交流、国際理解教育のあり方についてが主な話題になると思いますが、どちらも歴史的な流れがある中で、タイムリーな話題であると思えます。ジオパークの申請が目の前にあるわけですが、酒田市教育委員会、あるいは理科教育センターが中心となって、地元のジオをどうやって学習に取り入れていくかということは、長い間取り組んでいたことでもありますので、ゼロからのスタートではありません。これまでの積みあげをどのように活かすか、どのようなストーリーに位置づけていくかが重要なポイントになってきます。また、国際理解についても、その一つとしてデラウェア市との交流がございましたが、こちらにも長い歴史を持っています。このたび姉妹都市になるという新たなステージを迎えている中で、デラウェア市を含めた子ども達の国際交流がどうあればよいのか考える非常によい機会だと思えます。ここでの話し合いについて、市長部局と教育委員会お互いに方向性をそろえながら、より効果的に事業を進めていきたいと思っております。どうぞよろしく願います。

(大石部長)

ありがとうございました。それではこれより協議事項に入ります。ここからは市長に座長をお願いします。なお、発言の際には皆様座ったままでお願いいたします。

### 3 協議

(丸山市長)

それでは、協議に入りますが、先ほどお話ししました総合計画のワークショップなどでもぎっくばらんにお話しをさせていただいております。本当にフランクにお話しさせていただいておりますので、どうぞよろしく願います。最初に協議事項1、鳥海山・飛鳥ジオパーク構造について、鳥海山・飛鳥ジオパーク構想推進協議会事務局長である佐々木主幹より説明をお願いいたします。

(佐々木観光振興課付主幹)

初めに鳥海山と飛鳥の概要を説明いたします。飛鳥は日本海の南北にのびる海底山脈のて

っぺんにあります。今から一千万年以上も前に海底火山から噴き出したマグマが冷え固まったものが積み重なってできたものが後に日本海に隆起してきてできた島です。日本海の波や風雨に削られてできた島といえます。また、南北の動植物が同居するような生態系、海を生業とした人々によって培われてきた漁村の文化が見て取れます。

鳥海山には、地震や大雨で削れてできた地形がたくさんあります。地滑りによってできた代表的なところとして鶴間池があります。イヌワシが生息しており、外敵が近寄りにくい高い崖に住み着きます。大地の営みと自然の生態との強い結びつきが見て取れます。庄内平野、庄内砂丘が一望できる場所もございます。それから玉簾の滝ですが、一千五百万年前の海底火山の痕跡が壁面に見られます。

ただし、こういった貴重な地形があればジオパークになるのかということとそういったことではなく、ジオパークとは、地域の活動が大事になります。教育活動、地質、文化、歴史を保全しようとする市民の活動、そういったものを活用しながら地域が持続的に発展していこうというような地域振興の活動の有無を評価されて初めて認定されます。

学校教育の例を中心に説明いたします。日本で最も進んでいるのが新潟県糸魚川の世界ジオパークといわれています。世界ジオパークは8か所ありますが、日本国内で最初に認定されました。糸魚川ジオパークでは0歳から18歳までの子ども一般教育基本計画を策定しております。故郷である糸魚川への愛着形成という大きな目標を掲げながら年代に合わせて地域の素材に触れる機会を提供しています。内部の充実、教材の充実をもとにして野外活動や教育支援を行いながら最終的にはジオパークの交流会、発表会に結び付けています。また、フィールドワークを実施して新任の先生が地域について学ぶ機会を設けておりました。教材については副読本、それに加えてDVDや火起こしなどの小道具を使いながら昔の歴史を体感できるような準備をしていました。また、外に出て活動しやすいようにフィールドノートを準備しておりました。学校の先生とジオパークの研究員が協力してつくっていったという経過があるようです。市内に20の小中学校と3つの高等学校がありますが、ほぼ全校が参加する学習発表会が開かれます。また、世界ジオパーク検定というものを7回ほど行っております。糸魚川でも国際親善ということで海外に児童生徒を派遣しているようですが、こちらの検定の初級を合格した方でないとは派遣資格がないというハードルを設けております。

男鹿半島・大潟ジオパークではジオパーク学習センターという地域の素材について説明する職員一名を配置しています。また、ここでも学習会を設けており5つの小中学校が発表会を行いながら地域のことを学んでおります。男鹿半島・大潟ジオパークはジオパークになって4年、ゆぎわジオパークは3年になります。年数が経過するにつれ、教育活動や保全活動が進んでいるのが見て取れます。

鳥海山・飛島ジオパーク構想の活動についてですが、ガイド養成講座については、4つの自治体で58名の応募者がいました。講座については全体の8割を受講することで修了となります。修了者は現在51名、その中で実際のガイドになりたいということで説明等の練習を行っている方が43名おります。中には現職の学校教員や、教員を退職された方などもいるため、教育現場での活用も期待されています。

保全活動については、昨年10月を保全月間として、地域の皆様にお声がけし清掃活動、トビシマカンゾウ群生地草刈りなどを実施しました。産業振興については、モニターツアー

を実施しました。調査研究活動としては、埋れ木の調査研究、東北ジオパークの学術研究に携わる方々を招いての討論会を実施しました。周知活動は市民ギャラリーでの展示活動、文化祭での鶴間池についての発表等を実施しました。

教育関係では学校の先生方を対象としたフィールドワーク、教頭会への出前講座を実施しました。夏休みには、私どものアドバイザーでもある秋田大学附属小学校の校長先生から、親子で火山実験教室を実施していただきました。その他には公開模擬授業で地学について学ぶ機会を設け、一條小学校、八幡小学校で実施しました。また、今年度になりまして出前授業も行っております。酒田市の観光振興課の職員が出向いておりますけれども、小学校で3校、火山噴火実験や飛島の紹介をさせていただいております。その他にも中学校や東北公益文科大学などでも紹介をさせていただいております。

秋田県のかほ市では、講座等の取り組みが一過性で終わらないよう、にかほジオ学と銘打って活動はじめております。遊佐町でも小学校や学校保健委員会、PTA、自治会が一体となって同じテーマで学習しながら情報の共有を図ることを行っています。先日、象潟中学校で総合的学習の時間を3コマいただきました。ジオパークのこと、地域の文化、歴史のこと、鳥海山はどうやってできたのかなどについてお話ししました。こういった活動の中、私達がなぜジオパーク活動を行うのかということで、ふれる、楽しむ、好きになる、というキャッチコピーを準備しております。地域の様々なものに触れてその活動を楽しみ、地域のことを好きになってほしい。そのためには故郷を知る、資源を共有する、故郷を守る、産業を興すなど多面的な機能が備わっているジオパーク活動を教育現場でもどのように進めていくか模索しているところであります。以上です。

(丸山市長)

それでは、続いて学校教育課長より説明をお願いします。

(学校教育課長)

学校教育課長の今野でございます。私からは、お手元の資料についてご説明いたします。教育委員会で実施しているジオパークに関連する事業としては、飛島いきいき体験スクール支援事業、自然体験学習推進事業の二つがあげられます。飛島いきいき体験スクールの目的は、子ども達が、飛島ならではの自然、歴史、文化等について島民と触れ合いながら学ぶ機会をつくることで、郷土を愛し、大切にしようとする心を育てるとともに、飛島地区全体の活性化に資することです。実施校数は、平成26年度に4校、平成27年度に3校、平成28年度に2校と年々減少傾向にあります。これについては、台風などのトラブルがあげられます。また、事業内容に漁業体験がありまして、イカ釣りなどを実施するのですが、1艘の船に必ず教員を配置してくださいということを学校にお願いしていることから、大勢の職員を派遣しなくてはならないこと、医師がいま飛島に常駐しなくなったことなど、健康面で配慮しなければいけないということも考えられます。しかしながら、去年参加した学校につきましては、飛島の散策、イカ釣り体験、磯遊び、一夜干しづくりなどが行われ、参加した子ども達の満足度は高いものでした。

続いて、自然体験学習推進事業についてご説明いたします。現在5年目の事業でございま

す。目的は、生まれ育った酒田の自然を子ども達が体験し、自然の雄大さに触れることで、仲間と協力して活動する力の育成を目指すことです。主な自然体験プログラムとして、鶴間池や、家族旅行村の周辺を散策することで花、虫、生き物に触れること、鳥海登山、ネイチャーゲーム等で遊びの中で自然体験が行える活動を実施しております。これらの事業は支援団体としてガイドの方々の協力を得て進めておりますが、こちらの実施状況は増加傾向です。

教育委員会で実施している事業とは別に、学校の学習活動の中でジオパークに関連する学習も行っております。理科のテーマの例として「流れる水のはたらき」という学びの内容があります。川の上流、下流での川幅や流れの速さ、石の形状等の学習を日向川等に足を運んで実感するというそういった学習をしております。また、小学校6年生の理科、発展して中学校1年生の理科で「大地のつくり」、「変動する大地」というテーマで、水や火山のはたらきでできた地層について、八幡地域に実際に足を運んで観察するという学習もしております。社会科については、小学校3、4年生の社会科で「わたしのまち、みんなのまち」というテーマで、酒田市の地図や調べ学習をもとに、酒田市の土地利用の様子、水田の利用、土地の特性を活かした農業として、メロンや梨などの園芸農業の実態を調べております。また、「のこしたいもの、つたえたいもの」ということで、地域にある文化財、伝統芸能、祭りや風習について考えております。大地の恵みへの感謝や豊作への願いなどジオに関わるのではないかととらえております。「地いきのはってんにつくす」については、郷土の発展に尽くした人々について学ぶものです。植林や開墾の経緯などを学んでおります。その他の活動として総合的な学習の中で、鮭の孵化の観察をしている学校や、黒松の学習、松を守ろうというようなタイトルで総合的な学習を進めている学校もあります。また、日向川での学習、イヌワシ学習などの活動をしている学校もあります。それから、PTAの活動として鳥海登山、理科センターの事業として教職員の研修で野外観察会等を実施しております。かいつまんだ説明でしたが、以上です。

(丸山市長)

ジオパーク構想について皆様からご理解いただいたところですが、先ほど佐々木主幹からジオパークの保全、保護、教育、地域振興について説明がありました。ジオパークが現在39という結構な数がありまして、山形県にはまだ無いのですが、日本国内からみればそろそろ飽和状態になってきているのではないかと思います。今までは地域振興や観光に利用しようといった意図の取り組みが多かったかと思いますが、認定する側も飽きたというか、本質に目覚めつつあるのではないかと思います。これからは、教育や学術面の貢献という面から評価したい、そういった流れにあるような気がします。地元の生活の紹介、鳥海山といった資産を子ども達の教育、あるいは大人の社会教育でも、どれだけ教育的な活動に展開されているかということを見られていると思います。飛鳥いきいき体験スクールや、自然体験学習、各学校独自の取り組みもあるようですが、実際どれだけ浸透しているのか、私自身もあまり確信を持っていないので、皆様のご意見をお聞きしたいと思っております。

飛鳥いきいき体験スクールや、自然体験学習について、私なりの考えを述べますと、以前は、金峰自然の家や海浜青年の家へ行き、活動内容自体は専門の指導員の先生にお任せする形だったと思いますが、そのような形で学校外の活動に取り組んできたのではないかと思います。

ます。金峰自然の家は鶴岡市ですし海浜青年の家は遊佐町ですので、どちらの施設も酒田市外にあります。そのような中、野外学習の地産地消、酒田市の中でできないのかといったことを考えた時、それが飛島であり鳥海山での活動になるのではないかと思います。

先ほどの説明にもありましたが、飛島だと船の移動や引率する教職員の確保、医療面の課題等、保護者の方々からすると不安な面もあると思います。それだとやはり鳥海山の方がという感じもしなくはないと思うのですけれども、そういった形で事業をやっていると私自身は思うのです。もっと飛島や鳥海山を身近なものとして学んでもらいたい。そのために教職員や医者も確保したいと思うのですけれども、実際はお金がかかりますから、そこはハードルが高いのですが、総合計画のワークショップや未来会議でも、地元への愛着を育てることが今後の課題だとおっしゃっている方が結構いますので、それが人口減少の抑制や、文化・スポーツの向上などすべてに通じてきます。そういった意味では地元への愛着を醸成するのに取り組むきっかけとなるのが、このジオパーク構想だと考えました。そのため2～3年前からこの構想を考えておりました。ジオパークの認定を受けるのが目的ではなく、それによって地元の子供達達の心に残る、愛着みたいなものを植え付けるための起爆剤になればと取り組んでいるわけなので、ジオパーク認定を受けておしまいではなく、4年ごとに審査があり、世界ジオパークを目指すとなればさらに厳しい審査を経なければならない中で、我々の地域が鳥海山、飛島をひとつの核として、どれだけ地元愛を育てられるかが勝負だと思っているものですから、こういった事業で十分なのか、飛島にいたっては2校しか行っていないのでどうにかしなければならぬと思っているところです。鳥海山は4地区が共有しているので協力していけばいいですが、飛島は酒田市が頑張らないとどうにもならないので真剣に何とかしなければいけないという思いが強いです。8月12日～14日にジオパーク認定の現地審査がありますが、飛島と鳥海山を見ることとなります。特に飛島に対しての認識を酒田の子供達達がどれだけ持っているかというのをアピールしたいという気持ちがあります。あと1か月ほどしかありませんが、認定が最終到達点ではないので、これから先の課題としてとらえているのですが、具体的な事業でいうと、良いアイデアを持ち合わせてはいないのですが、こういった学校のカリキュラムの中にジオパークを位置づけできたら、組み込んでいけたらと考えています。どうぞご意見がありましたら聞かせていただきたいと思ひます。

漠然と自然という面ではいろいろな事をやってきたと思ひます。ただ、鳥海山、飛島に特化してまとめたものとしてやりたいなと思ひたときに、ジオパークは必要なのだと思ひます。今日の午前中に遊佐町で会議がありまして行ってきたのですが、遊佐の遊楽里に入ると、右手にちょっとしたホールがあるのですが、ジオパークの展示館がありました。すごいなと思ひました。例えば鳥海山・飛島ジオパークについて、どこか1か所に行けばすべて知ることができるという施設が酒田にはないのですね。遊佐に行くと、鳥海山の植物だとか登山ルートだとか鳥海山全体の姿を現した図があって、すごいなと思ひて、そういう面で酒田は他の町に比べて負けてるなという思いが個人としてはあるのですね。それで何かしないといけな思ひながらも、物をつくるほどの財政的な体力もないし、アイデア、ソフト的な施策でそういったものをつくりたいなと思ひております。國眼先生からは、東北公益文科大学の学生さんなども、飛島には今まで関わってきていただけてますけれども、大学のカリキュラムにも鳥海山・飛島研究みたいなものがあるとおかしくないと思ひますけれども、何かい

いアイデアがあればお聞かせいただきたいと思います。

(岩間委員)

とてもわかりやすい説明だったと思います。そもそもジオパークとは何か、それをやって何のメリットがあるのかということが伝わっていかないと、興味がなければ聞く耳も心も開かれないと思うので、そこで一番取り組みやすいのが親子なのであれば、教育から巻き込んでいくのが一番わかりやすいかと思います。私も昨年遊佐町でそういった事業に携わったものですから、ジオパークについてもどうしたら広がるのだろうなと思って、実際にそういった担当になったからこそのいろいろな所に行くの良いところがすごくあって、言いたい、伝えたい、ジオパークみんなで盛り上げていければいいなとは思っていました。飛島へ行く学校数が減っているように、学校にお願いするだけではなく、大変なところは家庭に持ち帰って、鳥海山に行ったり、飛島に行ったりというような、親子をサンプルとしたパッケージをつくってみて、観光でなく学びに行くというようなパッケージをつくって、本当は行きたいのだけれどどうやったら飛島に行けるのか、行ったらこんなものが欲しいとか、行ったら虫に刺されて大変だったりこんな物が必要だったり、行って嫌な思いをするよりだったら、事前に行くとしたらこれだけのものがあったら大丈夫というようなものがあればいいと思います。大人向けや小さい子どもと行くなら、こういったものが必要ですといったものが欲しいというのが、私の個人的な感想です。

(丸山市長)

そういう意味では、船の料金や時間帯も少し工夫したいところですね。一日一便しかないとなると行ってすぐ帰ってこなければならぬので、パックのようなものをつくるとしても、これでは何ともならないのかなという感じがします。それから、飛島に行ったことがないという方が松山、平田地区だと結構いらっしゃってこの状況はまずいなと思います。そういった方々から飛島に行ってもらえるような環境づくりが必要なのではないかと思います。蚊とか蛇も嫌な人は本当に嫌なんだろうなと思うので、そういう施設的な面も考えなければいけないと思います。他にございますか。

(齋藤委員)

今まで説明があった中で個人的に感じる事なのではすけれども、小学校では教育委員会だったり、学校主体のものであったり、様々な活動を行っていますが、そこを通り過ぎてしまうと何もなくなってしまっているように感じているのです。中学生になると、なかなか時間が取れなくなっていきますし、高校、大学に進学した場合にそこを補うような学習プログラム等といったものが欠けているような感じを受けます。今、教育委員会、小中学校で行っているプログラムの中で、子ども達にはそれなりの郷土愛の育成は出来ているのでしょうかけれども、なかなかそれをフィードバックして考える場所がないように思います。そういった点をもう一度考えていく必要があると思います。そのためにですが、例えば秋田県側の鳥海山を巡る施設などは、いろいろな面で整備されてます。個人的によく行くのですけれども、気軽に行けるような整備の仕方をしているように感じます。例えば、一つの施設の中でも1コース1

時間、徒歩1時間の間隔で休憩所を設けたり、入口のあたりには管理小屋のようなものを設置したり、常時、職員の配置もして置くというような整備をしている印象を受けます。我々山形県側にしてみれば、鳥海山を例にとって思うのですけれども、白井自然の家、万助小舎などあるわけなのですが、なかなか山小屋ができた時点から比べれば格段に人がそこに足を踏み入れなくなってきた。地元の方々の意識が薄れてきているのでしょけれども、そういったことを小学校でそれなりの位置づけをしても、将来育った方達が再認識する場所がないと、地元の方々にそういった認識を持ってもらえないと考えます。飛島に関して、自然はいっぱいあって都会の方から見れば楽園のような認識があるかもしれないのですが、地元の人から見れば、行って船が欠航になったらどうしようかといろいろなところがあるわけです。飛島の取り組みに対しても、今一度考えて、地元の方々とも協力して、外部から人が行きやすいような整備ですとか、再認識する場をつくるなど両輪で進めていかないと次のステップの移行にはなかなか難しい課題があると思います。ある程度の年代にならないと地元を再認識するようなことはないのかと思いますが、20代、30代の年代の方からそういった認識を持つための取り組みも必要があるかと思いますが。これまで行ってきた整備と学習機会という場を考えた時に、先につながらないような施策に取り組んできたのではないかと感じを受けています。そういった点を少しずつでも変えていかなければと思います。ジオパークが認定されれば、子ども達の意識も変わるでしょうし、子どもが関心を持てば親も感心を持つと思います。今までの枠を広げていただければありがたいと思います。

(丸山市長)

私もそのとおりだと思います。ジオパークの認定を受ければ、小学校以降の人達の参加を受けられる事業を起こしたり、施設を整備したりする理屈が立つと思います。市としてもほかと区別をして力を入れていけるかなと思います。

(浅井委員)

名称が鳥海山・飛島ジオパークですので、やはり飛島を教育の面からクローズアップしていかないとならないと思います。教育委員会でも飛島いきいき体験スクールの実施校数が低下してきていることを課題としております。事業が始まったころには、10校以上の参加校がありました。金峰少年自然の家や海浜青年の家などのように、行けば指導員がいるということでもないのに、実施は大変なのですけれども、必ず満足感を感じて帰ってこれますし、酒田市民でもこの事業に参加しなければ、飛島に行くということがない市民もいると思いますので、学校でもこの事業を大事にしたいというようなことを話した記憶がございます。学校教育課長が天候や医師の問題などをあげましたが、こういったことは10年前も同じような条件でした。それでも行っていたわけですので、何とか参加していただければという思いです。ただ、決めるのは学校長ですので、教育委員会でもバックアップの体制を整えてもらい、もう一度実施校の増につなげていっていただきたいと思います。また、県でも飛島を利用した事業を実施しているので酒田市もいろいろな課題をクリアしながら各学校に呼びかけをしていただけないかと思います。

(丸山市長)

県で取り組んでいる離島振興計画というものもありますから、県もやはり深く関わっております。国定公園でもありますから、行政エリアは酒田市であっても県と連携していろいろな事業を展開していくということもできるかもしれませんね。

(國眼委員)

酒田では見るができないのですが、先日、日本経済新聞の夕刊に飛島が取り上げられていました。大物忌神社と小物忌神社の火合わせの儀式が写真入りで紹介されていました。全国紙でも取り上げられるほど魅力のあるところなのだと思います。先ほど佐々木主幹より、ふれる、楽しむ、好きになる、そのためには知らなくてはならないとの説明がありました。小学校だけでなく、飛島のことを知りたいと思う大人もたくさんいると思います。東北公益文科大学の学生達も浜田小学校の飛島いきいき体験スクールのサポーターとして飛島に行っているのですが、1回行くとやみつきになるようで、2回、3回と繰り返し飛島に行く学生がおります。つまり、知らなかったことを知ったことが面白いという学生、こんなところがあったのかという学生が多いのです。小学生だけではなく大学生以上の大人達も参加できる仕組みがあればいいと思います。

私もジオパークという言葉は聞くことがありましたが、よく知らなかったものですから良いきっかけかと思いネットで検索してみたりいろいろと調べてみたところ、これは面白いな、魅力的だなと感じました。酒田ならではの事業展開ができるのではと思ったところでした。学校教育課長より小学校、中学校での取り組みをお聞かせいただきましたが、社会教育との連携ももっとあっていいと思います。ジオパークを楽しむためには、ガイドやインストラクターがいるかないかで相当違うように思いますが、その楽しさを一緒に知ってみたい、触れてみたいという方々は、インストラクターになれる一步手前にいる方であるとも思います。そういった方々にチャンスを与えられるような事業などを展開できないか、そういった仕組みがあっても良いかと思えます。小学生だけではなく一般の方々が行ってみたいと思ったときに参加できるような仕組みづくり、これは鳥海山もそうですが、そういった仕組みづくりをしたほうが良いと思います。これだけの資源を活用しない手はないかと思えます。

また、私自身もったいないなと思っているのが、旧松山町の眺海の森です。閑散としていてかつてはあれだけ整備していたのに思うほど人がいない状況ですが、眺海の森から眺める庄内平野は素晴らしいものがあります。そういったところも一体的に活用できないものなのだろうかと考えます。主な自然体験プログラムとしてほたるの観察や星空観察などがあげられていますが、酒田の子ども達は空をちゃんとみているのかなと思います。あまりにも普通にあるので、見ていないのではないかなと思います。飛島や鳥海山、眺海の森などを活用して自然に触れるということが多角的にやっていければと思います。

(丸山市長)

鳥海山に夜中に登る、影鳥海を見る会というのを八幡総合支所でやっています。あざみ坂を登ったところで、夜中に寝転んで空を見ていると流れ星が降ってくる夜空を見ることができますが、この体験は並大抵のものではありません。こういった体験を子ども達にさせてあ

げたいのですが、夜中に小学生を連れて行くのは大変なことです。市として教育委員会として万全の準備をした上でこういった事業を展開できれば、これは素晴らしいことだと思います。社会教育ではこういった事業はあまりやっていないのですよね。今年、飛島総合センターの職員を一人増やしたのですが、そこをうまく使って、社会教育や学校教育、防災、観光などに仕掛けをしてほしいとの思いがありました。飛島のコミュニティ振興会から元気を沸き起こしてもらっていろいろな活動をやっただけであれば、飛島にも行きやすくなるのですが、職員を一人増やしたからといってそんな単純に変わるといってもないものですが、少しずつ環境を整えていきたいなと思っております。

#### (村上教育長)

私も環境を整えていくことが何より大事なことだと考えています。そのためのプロセスの話なのですが、男鹿がジオパークに手を上げたときに、偶然に男鹿のプレゼンを山形市で聞く機会がありました。そのプレゼンの終わりに、実はなにをしたらいいかわからないのですというお話を聞きました。あれも良いところはある、これも良いところはある、こういったところは、市や県民の人達にももっと知ってもらいたいということなのですが、誰が何をすればジオになっていくのか、それがわからないのですということでした。全国的なジオのアドバイザーが来ておりましたので、それを教えてくださいとそういったことをプレゼンで話しておりました。この時私が思ったのは、何かできたので来てください、環境が整ったので来てくださいということも当然あるのですが、ジオの狙っているところは、どういったことをしたらその地域の良いと思っていることを共有できるのか地元の人達が手探りでやっていくプロセスこそ大事なものだと考えています。それを無視して、他所から降ってきたセットにそのままはまらない方がいいと思います。男鹿であれば、田んぼについても言いたい人達、男鹿の地形、八郎潟についても言いたい人達がたくさんいるわけですので、そういった方々とネットワークを組みながら試行錯誤していくほうが良いとアドバイザーはおっしゃっていました。一番大事なのは地元のことを伝えたい人達の間でネットワークをつくることです。それさえ動き始めればだんだん全体が良くなってくると思います。今、男鹿の話も少し説明をいただきましたが、ここまできたのかという思いです。不安で不安でしかたなかったプレゼンからここまできたのかと思いました。きっとアドバイスの一つをうまく考え、人を動かしたのではないのかなと思います。もちろん、素晴らしい宿泊施設をつくるだとか、すごいガイドを仕上げてしまうといったことをすれば必ず良い効果は生まれるのですが、知らないところでつくるよりは、地元の方々と協力しあってそういった体制をつくりあげるほうが長続きすると思います。予算が無いのもういやとはならない、みんなで作った大事なものですからそうはならないのだと思います。具体的には何も言えないのですが、そこが一步踏み出すときに大切なことかと思えます。

#### (丸山市長)

おっしゃるとおりだと思います。いかに根付かせていくか、根付かせる風土がそこにあることが大事なので、建物ができれば盛り上がるというような単純なものではないわけです。鳥海山を語る人はいろいろなところにいるかと思いますが、飛島についてはどうでしょう

か、そういった環境をどうつくっていくかは課題かと思います。緑の協力隊など若い人も飛島にいらっしゃるので、そういった若い人達を大事にしたいと思います。自分達がやっていることを、教育委員会も含めて市が評価してくれているというやりがいエネルギーになると思いますし、しっかり取り組んでいきたいと思います。もっとお話しをしたいのですが、ジオパークについては一旦区切りまして、もう一つのテーマ、こちらも大きなテーマなのですが、国際交流事業についての協議に移りたいと思います。初めに資料についての説明をお願いします。

#### (岸谷市民交流推進主幹)

酒田市の国際交流事業の現状について、私からは市長部局での取り組み、企画管理課長からは教育委員会での取り組みについて説明いたします。主に姉妹都市、友好都市、姉妹校についてお話しいたします。姉妹都市交流に関しては、歴史的なつながりがあったことをきっかけに、双方の条件が一致した場合に盟約しております。姉妹都市と友好都市に分けておりますが、姉妹都市は全体的な交流で、友好都市は一定の専門的な分野に限定されています。ジェレズノゴルスクイリムスキー市については、ロシアのイルクーツク州です。昭和46年から47年頃に日ソ沿岸市長会議の場で交流の希望が出されて、昭和54年に姉妹都市の盟約を締結しました。交互に使節団の受け入れ、訪問の実施、スポーツ、文化、経済と様々な交流を行っています。ここ5年では震災による中止もありましたが、音楽隊の受け入れと東北公益文科大学生による訪問などを行っている状況です。

次に、唐山市についてです。唐山市は、昭和51年7月に24万人が死亡する大地震にみまわれ、同じ年に酒田市では酒田大火が発生しております。両市とも悲惨な災害から復興を果たした都市として平成2年に友好都市の盟約を締結しています。交流の内容は経済、農業などがあります。国際交流は国の外交関係も影響してきますので、過去5年間、交流がなかなか無かったこともありましたが、今年4月末に唐山市の世界園芸博覧会に招かれまして、市長が行ってまいりました。5年に一度、こちらは来年になるのですが卓球での交流も行っています。

次に、ケープコッド・ライトハウス・チャータースクールについてですが、この学校はアメリカのマサチューセッツ州にあります。旧松山町時代に松山中学校に赴任してきましたALTがきっかけとなり交流を始めました。最初は松山中学校の生徒だけが訪問していたのですが、平成11年に姉妹校になったのを契機に、派遣と受け入れを繰り返す相互交流を実施しております。交流内容はホームステイや地域の文化団体との交流などです。最近5か年においても、平成23年度は交流を行いませんでしたが、相互交流を続けております。私からの説明は以上です。

#### (桐澤企画管理課長)

企画管理課の桐澤です。教育委員会部局で取り組んでいる国際交流事業、学校教育以外の英語教育の取り組みについてご説明いたします。教育委員会では、アメリカ合衆国オハイオ州デラウェア市と平成8年から交流をしています。中学生海外派遣事業「はばたき」として酒田市の中学生が訪問しながら、現地の中学校に体験入学し、語学研修、日本文化の紹介を

してきています。昨年度、この交流をさらに拡大するために、教育長ほか酒田からの訪問団がデラウェア市を訪問いたしまして、今後様々な交流活動が期待されています。

続きまして、ロサンゼルス四世バスケットボール協会との交流です。これについては5～6年に一度という不定期の交流となります。昨年度、日系四世の中学生とその家族が本市を訪れ、日系四世の中学生が酒田の中学生の自宅にホームステイをし、バスケットボールの試合や文化体験を通して交流しました。この事業につきましては、ホームステイを受け入れた酒田の中学生と家族が今年度ロサンゼルスを訪問する予定になっております。

その他の取り組みとして、学校教育以外の英語教育として、未就学児、小学生を対象とした「英語で発信できる子ども育成事業」を実施しております。また、今年度から中学生を対象とした英検三級取得を目指すきっかけとして、東北公益文科大学の先生のご協力をいただきながら、英語の学習講座を開催いたします。また、昨年度からこちらも東北公益文科大学の先生方のご協力をいただきながら高校生を対象としたグローバルセミナーを実施しております。このように学校教育以外でそれぞれ世代ごとに英語教育の取り組みを行っています。以上です。

(丸山市長)

国際交流事業の中身をテーマにしたかったわけではなく、今の子ども達の教育を考えたときに、グローバルな感覚とスキルを身につけなければいけない。英語が話せないと世界を舞台に、あるいは地方であってもなかなかやっていけない時代になってきているので、それを高めるにはどうしたらいいのかという思いがあってテーマにさせていただきました。今も国際交流のための事業を単発でやっていますが、姉妹都市の交流にしても定期的に訪問、受け入れを実施する以外にこれといった活動はしていないわけです。ケープコッド・ライトハウス・チャータースクールとの交流も市全体の交流とはなっておりません。ごく狭い範囲で事業が展開されているととらえられなくもない現状というわけです。ただ、デラウェア市との交流については20数年来の活動があって姉妹都市になるまで進展いたしましたので、これはすごいことかと思えます。子ども達が交流を続けて芽が出たのかなということですので、締結した後も緊密な交流事業をできればよいと思えますし、英語圏の国ですので、大学の教員や学生からも酒田に来ていただき、こちらの子どもの教育の向上に資する活動が展開できれば良いと思います。来年、デラウェア市長も酒田にいらっしゃると聞いておりますので、子ども達の交流からスタートした事業ですが、地域のグローバル化に資する一つのきっかけになるのではないかと期待をしております。

中学生海外派遣事業「はばたき」についてですが、先日娘さんが「はばたき」に参加したという方とお話しをしたのですが、その時の経験をもとに今は外国の商社に働いているのだそうです。「はばたき」に参加した子ども達を追跡調査すると、例えば外交官だったり、商社の中核でがんばっていたり、外国に移住していたりと活躍している人達もいるのだろうと思います。なかなか調べきれものではないと思うのですが、おそらくその後の人生に良い影響を与えていると思っておりますので、こういった事業はどんどん進めていってほしいと思います。

それ以外にも英語で発信できる子ども育成事業ですとか、東北公益文科大学よりご協力を

いただきグローバルセミナーなども開催していますので、姉妹都市についても市民レベルの交流まで広げていかないといけないと思っておりますし、子ども達のグローバル性を育むというかツールとしての英語力をもっともっと高めていくということも大切だろうと思っております。私どもが行っている市政の大きな柱になるものと考えております。

例えば、ALT が学校にはいるわけですが、もっと配置してほしいといった声も聞こえてきますが、なかなか市単独で行うのは難しいので、東北公益文科大学の外国語に長けた先生達を小中学校に巻き込んでいく、あるいは高等学校の ALT を、県と市の垣根を取り除いて活用していくといったことがやり切れていない。せっきゃくこれだけの国とお付き合いがあるので、もっと子ども達にこういった場を提供できるようにしていきたいと考えておりますので、何か良いアイデアがないか皆様のご意見をお伺いしたいと思います。

#### (國眼委員)

うちの学長は、英語村をつくりたいなどとも言っております。ある特定の学校、ある特定の子ども達だけでなく、もう少し広がりをもって子ども達が英語と触れる機会を持てるような場所をつくれればと思います。一度中学校でつまづいてしまうとなかなか再チャレンジができない、そういった学校の英語とは違う意味で日常の英語を楽しめるような場があると良いのではないかと思います。

#### (丸山市長)

東北公益文科大学のカフェテリアなどで、定期的に外国の方や、市民が気軽に参加できる交流イベントのようなものをやれたら良いなと思いますね。大学をつくったときに、市民に開かれた大学、カフェテリアにするという思いがありました。交流イベントをすれば、東北公益文科大学は環境も良いし、駐車場もありますから非常に良いと思います。浅井先生いかがでしょうか。

#### (浅井委員)

英語はこれから小学5、6年生で教科にもなってきますし、英語の重要性は学校教育の中でも増してきていると思います。英語で発信できる子ども育成事業が教育委員会の所管となりましたが、民業圧迫ということからもむやみに事業を拡大することもできないと思います。また、新たに東北公益文科大学と教育委員会の連携で英検3級突破を目指しての講座の実施も非常に良いと思います。しかし、英語教育の基本はやはり学校だと思います。英語の授業で子ども達の力を伸ばしていくことが大事だと思います。学校での授業を教育委員会としては、もっと大事にしていかなければと思っております。そういう意味ではALTが以前は4名いましたが現在は3名です。学校の要望がなかったのか、財政的な面なのかわからないのですが、ネイティブに触れる機会を最もつくれるのはALTかと思います。そういった授業を大事にしたいと思います。県内のある市では、英語力を向上させるために中学校に一人ずつALTを配置するといった方針を打ち出したようです。酒田の場合は、飛島中学校を除けば中学校は7校です。教育支援員も増員していただき、またかという話にもなりますがALTの増員も検討していただきたいと思うところです。

(丸山市長)

デラウェア市にウェスリアン大学があるのですが、その学生から来ていただいて教えていただくというのも良いと思います。光陵高等学校の先生とお話しする機会があって、自分達の ALT の時間が余るときがあるので、松陵小学校や第一中学校で教えられればいいのというお話しをお聞きしました。県と市の教育委員会の違いがあるので、そういったことはできないのですが、建物は目の前にあるわけですので、児童や生徒が光陵高等学校に行ったついでに ALT とも交流するというようなことができればいいのですが、なかなかこういったことは難しいのだと思います。壁を突破するためのエネルギーが必要になりますから、なかなか実現しないのですが、中高一貫校が県内にもできましたし、一貫と言わなくても協力といったことができれば、お互いの教育機能を活かせるのではないかと思います。教育長が松陵小学校の教頭先生をされていた時に、東北公益文科大学の学生を指導助手にしたりなど、先進的な取り組みもされていましたし、そういったことの延長として何か考えられないでしょうか。

(浅井委員)

ALT の人数が減少した要因はなんなのでしょうか。

(丸山市長)

確かに以前は 4 名でした。うち JET プログラムでの ALT が 2 名と記憶しているのですが。

(桐澤企画管理課長)

減少となった 1 名は中央高等学校に配置されていた ALT かと思います。中央高等学校の統合とともに減となりました。

(丸山市長)

中央高等学校の統合が要因だったのですね。わかりました。齋藤委員いかがでしょうか。

(齋藤委員)

グローバル化や英語力ということですので、当然英語に触れる回数を増やしていかざるを得ない、小さな年代の時から外国の方と接する機会を増やしていかざるを得ないと思います。これはどなたが考えても課題として行き付くことと思います。我々の年代になって英語を覚えようと思っても難しいわけです。若い年代の時に、英語に対する拒否反応をいかに無くすかが大事だと思います。そこから一言、二言話してコミュニケーションがとれるようになって、次に関心を持てれば言葉を自分から勉強するだろうし、そういった場、体験する場を設けるために ALT の存在というのはすごく大きいと思います。我々が小学生の時に学校に外国の方がいるわけがないので、例えば、都会に行った時に外国の方がただで驚いた世代ですから、そういう意味では回数をいかに増やすかだと思うのです。酒田に住んでいる方でも英語が堪能な方はいます。当然、行政で把握できてない部分もあるでしょうが、そういった

方々に機会をつくってもらうのが当面の課題だと思います。とにかく経験が必要かと思えます。先ほど國眼先生もおっしゃられた日常の英語、遊びの英会話が必要で、遊べなければ面白さは出ないわけです。そういったことも無ければ難しいと思えます。その部分に関心を持てる取り組みができれば、より活動が深まっていくかと思えます。

(丸山市長)

先ほどのジオパークの話もそうなのですが、国際交流のいろいろな活動を展開するプラットフォームみたいなものがあるといいなとは思っております。行政がお金を出さないと動かないのではなくて、社会に対して自分はこういう貢献をしたいという方がいっぱいいますよね。英語が喋れる方もいますし、教員出身の方もいらっしゃる。ジオパークでいえば地質に長けた人とか、地元の風俗とか歴史に詳しい人がいますよね。そういった人達から集団を形成してもらって、行政と連携するけれど基本的には自分達の思いがあって自分達を中心になって運動するような組織が出来上がってくると、そこと一緒に行政がいろいろな仕掛けができるのでありがたいと思っておりますが、なかなか無いですね。点在しているのだけでもまとめて何かしてくれるかというところではない。行政が一から十までお膳立てすれば乗ってくる人はいるかもしれないのですが、自分達から能動的にはしたがるという人が多いのでどうしたものかなという思いがあるのですけれども、いろいろなスキルを持った方がいると思えますし、そういった人達の活躍の場を束ねるための仕組みづくりが今行政に問われているという感じがします。考えていきたいと思っております。

(岩間委員)

私も英語はどちらかというところではできない方で、しゃべるなんてものほかにいうところでは止まってしまっているのですけれども、文法以前に英語で外国の方と会話をして楽しいと思わせるきっかけづくりというか、日常会話でもなんでもいいのですけれども、興味を持たせてやれば、そこでもっともっと深めていきたいと思う子もいると思うのです。深いところの事業は整備されているのですけれども、みんなにそういった機会があるような、まず浅い所に種まきをして、それをキャッチする子をまずは増やして、そこから第二ステップということでは整備していけたらいいのかなと思いました。皆さんALTにお金をかけてお願いするというところで話してはいたけれど、酒田市に住んでいらっしゃる在日外国人の方に酒田のことを覚えてもらう代わりに向こうの方の個性や能力も活かしてあげられるような場として、市内の小中学生と勉強ではなくただ会話するだけでもいいと思えますし、そのような場があれば楽しくお互いにもわかりあえると思えます。今年は青年会議所の事業でフィリピンに7名の子が選抜されていくわけですけれども、その前の年は国際交流の委員会があったときに、ダンスを通して国際交流をしましょうというものがあって、声をかけたら練習会を4回くらいやって希望ホールの小ホールでダンスパーティをやりましょうということになりました。本当にたくさん来ていただきました。その時は英語圏よりは中国、韓国の方が多かったので、英語に限らずどの国の言葉に興味を持つかはわかりませんので、そういった機会があったらいいのかなと思いました。経験したということはやはり自信にもなると思えますし、本当に小さなことでも興味を持たせるようなチャンスがたくさんあったらいいかなと

思います。

(丸山市長)

国内交流もあるけれど、国際交流まつりみたいなものもやってるのですよね。あれも間口が狭いというか、そこに集った人達だけの交流という感じがしなくもないので、広がり、特に子ども達を巻き込むような活動に広げられたらいいなという思いもあります。それから、学校であれば子ども達だけにスポットを当ててもしょうがなく、親も意識してそういう家庭環境を作るのが大事かなと思います。一年に一日くらいは英語しか使ってはダメな日を家庭でつくって朝から晩まで英語でしゃべってるというのもおもしろいかなと思いました。学校や市からあれをなさいこれをなさいというのではなくて、親御さんが遊び心でやるというのも面白いのではないかと思います。そういうのを意識的にやっていかないと英語に親近感がわいてこないなと、そういう気もします。

色々な意見をいただいて、皆様の意見を参考にしつつ、ジオパークについても国際交流事業についても考えなきゃいけないなと思いますが、いずれにしても色々な事業をやるにあたっては、我々大人が楽しければいいというだけでなく、必ずそれが子ども達に還元されて、子ども達の成長の上で身になるような、市の事業あるいは教育委員会の事業というものを考えていかなければならないなと思います。2つ大きなテーマでお話しさせていただいたので、最後に教育長からまとめていただきたいと思います。

(村上教育長)

市長もおっしゃっていましたが、やはりジオは地元を知る、ふるさとを知るという大きな枠組みの中ですべて大切なことだと思いますし、固く言えば自分のアイデンティティについて深く認識していくというのは、とても大切なことだと思います。そのことがないと逆に英語で交流しようとしても伝えるべきものがない、それから学ぶべきものもない、まず自分の中に出したいものや、比べたいものがなければ、どこに行ったらアイスクリームはおいしいですねということがあっても、アイスクリームが自分の国と違うということを知って初めていろいろなことが面白くなってくるので、そういった意味では、交流したりすることとジオとは非常に深く結びついていると思っております。

たとえば、富士山に行くとジオとしての富士山をちゃんと勉強できるようになっているし、親切なガイドはちゃんと付くし、そしてそのことを知りたくて登ってくる人達もとてもたくさんいるのだなとあらためて思いました。日本の山として、自分が日本人なのだと思って登っていく方もたくさんいるのだらうなと思いました。

このジオというものの学習パックを非常に細かく用意してあげたならばいいのではないかと思います。私が考えたのは、鳥海山の雪形をスケッチすることです。書いてみて初めて種まき爺さんの形がわかる、さらに季節を変化させてみたらまた雪形も変わって婆さんもいるみたいだとかいろいろな発見ができるかもしれない。さらにその時期は終わっても、大人になって今度はなぜそもそもあんなに海岸に近いところに山があるのだらうかと根本的な問題に刺さろうとする人も出てくるし、海岸に伏流水が出てくるのはなんで、という

ことが学べるように、いつでも入れるし、いつでも抜けられるのだけれど、また戻ってこれられるという学習パックをつくることができればいいのかなと思っております。

もう一つ、英語の交流のことで言いますと、わたしが一番驚いていることは、デラウェアでの中学生の交流ですけれど、英語が出来ないのに行ってるのですよ。英語が出来て教育ががちりして下さい、そして、どんどん世界に飛び出してくださいというように、それは正論だと思っております。ただ、あの子ども達の力を見てると、どうしていいかわからない、何と話していいかわからないのに過ごしてくるあの生命力、生活力、だからまた行きたいと思うようになる。発表会の時も、英語が出来なかったことを初めて本当に悔やむようになる。本当に英語の力がほしいと心から思うようになるのは、通じなかった痛いほどの体験があったからだと思います。だから、そういう経験もすごく大事で、例えば市長からもいろいろなアイデアが出てきましたが、英語づくめの合宿などは本当に面白い発想なのかなと思います。順序良くプログラムをこなして行ってそれから外国に行きなさいという考えだけではなく、豊かな異文化との経験、それが楽しいなと思えば英語は嫌いにならないと思います。そういった逆方向のプログラムを考えていくというのも一つかなと思いました。

(丸山市長)

今の子ども達は、英語がしゃべれないのに行くのですね。4月の下旬に唐山市に行ったのですが、友好都市全世界から市長が来ているのですね。英語でしゃべるのですね、中国の副市長は。私はしゃべれないので、やはりこれからは市長たるもの英語ぐらいしゃべれなきゃダメだよなと思いつつ打ちひしがれて帰ってくるわけです。子ども達とはそこが違うわけです。イタリアに行った時も、なんだかんだ言って万国共通語は英語ですから、英語って大事なんだなと思いました。本当に子ども達がこういうのをきっかけに自分は勉強しなきゃダメなんだと思ってもらえればそれだけで十分効果があったと思います。

そういった意味ではいろいろな事業をこれから考えていかなければならないのですけれども、実は教育委員会の企画管理課は、今年度から管理課の前に企画が付いたんですが、これはそもそも村上教育長が教育行政の中にも企画部門があってもいいのではないかと私に囁いたんで、よしもらったと思って付けたのですけれども、すべてが子ども達の教育に繋がるのだと認識すれば、教育委員会で実施している事業だけでなく、市長部局で実施している事業もすべて関わってくることからすると、桐澤課長は企画管理課長ですので、企画の面からいろいろと市長部局にも物申してもらいたいわけです。そのことが教育行政にどのくらい良い影響を与えるかということ、あるいはそのことを念頭に置いて事業を組むようにぜひ言ってください。お互いに意見を言い合って良い事業ができればいいなと思います。大変有意義な意見交換ができたと思います。ありがとうございました。テーマについては以上でございますが、皆様から何かございますか。

(齋藤委員)

全然関係のない話なのですが、NHKのラジオ体操が8月7日にあります。早朝ですがぜひご足労願えればありがたいです。地域の方々一体となって汗をかきながら頑張っております。

(丸山市長)

あののん、もしえのんくらい出ないのでしょうか。そういうのがあれば子ども達も喜びますよね。そのくらいの盛り上げがあってもいいのではないかなと思います。

(齋藤委員)

ぜひ市長もラジオ体操して頂いて、放送時間 10 分くらいですので、マイクを握って酒田のアピールもしていただければと思います。

(丸山市長)

では、そう言っていただきましたので行かせてもらいたいと思います。他に何かございますか。

(岩間委員)

今、うちの会社に職場体験で高校生や中学生が来ておりますけれども、子ども達のモチベーションなどといった部分を、もっとうまく活用したいのだけれども、なんとかならないものかと、ほかの企業の社長さんなどと話しているところです。企業と学校で分かり合えてなくてうまくいかない場所もあるのかなと思います。事業として職場体験というすごくいい機会はあるのですけれども、それがなかなか上手く出来てないような意見もあったので、キャリア教育の一環として、今後の議題の一つとしていただければと思います。

(丸山市長)

私の直属に市長公室というセクションがあるのですが、そこでいろいろやり取りをしている案件で、東北公益文科大学の先生がメンバーになって、学生が中心となり、自分達はこの仕事がしたいのだというそういったアピールの場ができればいいねと考えております。大企業ばかりではなくて、地元については中小企業がほとんどですよね。今の学生が仕事に就いて何をやりたいと思っているのか、学生の意見を聞く就職セミナー的な、今までは企業が喋って学生がそれを聞くという、それを逆転させて、学生が喋ってそれを企業側が聞くというような活動も面白いのではないかと話しをしてたのですけれど、総合教育会議の中でもすこし議論できればなと思っていました。皆様どうもありがとうございました。第2回も予定しておりますが、それまでにいろいろと意見交換できるように私も充電していきたいと思えます。皆様もいろいろと充電してきていただければと思います。

(大石教育部長)

次回の開催予定は 10 月か 11 月に予定しておりますが、詳しい日程につきましてはあらためて事務局よりご連絡させていただきます。よろしく願いいたします。

これをもちまして、平成 28 年度第 1 回酒田市総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。